

# トマトキバガ情報第1号

令和6年5月8日  
愛知県農業総合試験場  
環境基盤研究部病害虫防除室

## フェロモントラップで誘殺を確認しました ほ場での発生状況に注意しましょう

### 1 トマトキバガの愛知県での発生確認経過

愛知県内のトマトほ場周辺に設置したフェロモントラップにおいて、令和6年4月24日にトマトキバガ雄成虫2頭の誘殺を本年度初めて確認しました。なお、トラップの設置地点周辺では、本種幼虫の寄生は確認されておらず、農作物への被害も確認されていません。

愛知県では令和5年10月にフェロモントラップで初めて誘殺を確認し、その後県内の複数地点で10月末まで誘殺が認められました。

### 2 他県での発生状況

本年3月以降、フェロモントラップでの誘殺やトマト施設での育苗中の苗等での食害発生が複数の県で確認されています。近隣県では、三重県で4月12日にフェロモントラップでの誘殺が確認されています。

### 3 防除対策

(1) ほ場内をよく見回り、発生の確認に努めましょう（写真1～4）。

トマトキバガの発生が疑われる症状を確認したら、速やかに病害虫防除室（下記連絡先）または最寄りの農業改良普及課へ御連絡ください。

トマトキバガの形態等詳細は、令和5年10月23日発表の令和5年度病害虫発生予察特殊報第1号を参照してください。

(2) 施設栽培で防虫ネット未設置の場合は、コナジラミ類対策も兼ねてハウスの開口部に0.4mm目合いの防虫ネットを設置し、本虫のハウス内への侵入を防止しましょう。

(3) ほ場で発生が認められた場合は、発生を拡大させないため、薬剤散布を行うとともに、被害葉や被害果実はほ場に放置せず、速やかに土中に深く埋却するか、ビニール袋などに入れて一定期間密閉して寄生した成幼虫を全て死滅させてから適切に処分しましょう。

なお、薬剤散布にあたっては、最新の農薬登録情報を確認し、薬剤感受性の低下を防ぐため系統（IRACコード）が異なる薬剤のローテーション散布を行いましょ（表）。

### 4 連絡先

農業総合試験場環境基盤研究部病害虫防除室  
電話 0561-41-9513（ダイヤルイン）



写真1 トマトキバガ成虫（前翅長約5mm）



写真2 トマトキバガ終齢幼虫（体長約8mm）



写真3 トマトキバガによる葉の食痕

茎葉の内部に幼虫が潜り込んで食害部分は表面のみを残して薄皮状になり、白～褐変した外観となる。



写真4 トマトキバガによる果実被害

果実表面に数 mm 程度のせん孔痕が生じるとともに食害部分の腐敗が生じ果実品質が著しく低下する。

写真は全て農林水産省植物防疫所原図

表 トマトキバガに登録のある農薬 令和6年5月8日現在

薬剤名	希釈倍率 または使用量	使用時期	使用回数	適用作物		IRAC コード
				トマト	ミニトマト	
ベリマークSC	薬量 400株当り25ml (灌注) (希釈水量 400株当り10~20L)	育苗期後半~定植当日	1回	○	○	28
プリロッソ粒剤	2g/株 (株元散布)	育苗期後半~定植時	1回	○	○	
プリロッソ粒剤オメガ	2g/株 (株元散布)	育苗期後半~定植時	1回	○	○	
ディアナSC	2,500~5,000倍	収穫前日まで	2回以内	○	○	5
ラディアントSC	2,500~5,000倍	収穫前日まで	2回以内	○	○	
ダブルシューターSE	1,000倍	収穫前日まで	2回以内	○	○	-, 5
アグリメック	500~1,000倍	収穫前日まで	3回以内	○		
アフーム乳剤	2,000倍	収穫前日まで	5回以内	○	○	6
エスマルクDF	1,000倍	発生初期 但し、収穫前日まで	-	○	○	
コテツフロアブル	2,000倍	収穫前日まで	3回以内	○	○	13
トルネードエースDF	2,000倍	収穫前日まで	2回以内	○		22A
アクセルフロアブル	1,000倍	収穫前日まで	3回以内	○	○	22B
フェニックス顆粒水和剤	2,000倍	収穫前日まで	2回以内	○	○	28
ベネビアOD	2,000倍	収穫前日まで	3回以内	○	○	
ヨーバルフロアブル	2,500倍	収穫前日まで	3回以内	○	○	
グレーシア乳剤	2,000倍	収穫前日まで	2回以内	○	○	30
プレオフロアブル	1,000倍	収穫前日まで	2回以内	○	○	UN

成分ごとの総使用回数に注意する。

IRAC コードは殺虫剤の作用機構による分類を示す。

IRAC コードの詳細は、[https://www.jcpa.or.jp/assets/file/labo/mechanism/mechanism\\_irac03.pdf](https://www.jcpa.or.jp/assets/file/labo/mechanism/mechanism_irac03.pdf) を参照する。

薬剤の使用に当たっては、ラベルの表示事項を守るとともに、他の作物や周辺環境への飛散防止に努める。